The Society for Bioscience and Bioengineering, Japan

本部だより

◇平成17年度　日本生物工学会年次大会後記◇

大会実行委員長　田中　秀夫

日本生物工学会・平成17年度大会が11月15日～17日にわたって「つくば国際会議場」および「文科省研究交流センター」において開催された.「つくば」での開催は12年ぶりであったが，平成5年当時，交通の不便さから「陸の孤島」と評された「つくば」も「つくばエクスプレス」が開通し，さらに最新鋭の設備を備えた会場での年次大会は評判も良く，隔世の感があった.

講演件数は一般講演628件，シンポジウム13テーマ74件，招待講演4件，受賞講演6件，合わせて712件であった．有料参加者数は正会員740名，学生会員425名，非会員281名の合計1446名に達し，最近これらが減少する中で最多の大会であった．特に非会員の当日参加者（207名）が例年と比べて多く，バイオへの関心の高さと「研究学園都市つくば」ならではの特徴と考えられた．展示会には44社の出展協力が得られた他，地場産業などの展示も行われた.

大会1日目午前中に授賞式があり，五十嵐会長の挨拶，授賞選考経過報告に続き，生物工学賞（田中秀夫），技術賞（小島岩夫ら），江田賞（山下伸雄，窪寺隆文），斎藤賞（野村暢彦），照井賞（川瀬雅也），生物工学アジア若手賞（Wen-Tso Liu），論文賞（三浦重信ら，米良信昭ら，朴　永哲ら，黒瀬直孝ら，仲 祐貴江ら）の各賞が授与された．授賞式のあと，生物工学賞「培養装置の開発とその実用的利用」，技術賞「ブランチングエンザイムの実用化と高度分岐環状デキストリン（クラスターデキストリン®）の開発」，生物工学アジア若手賞「Environmental Biotechnology-on-a-Chip」の受賞講演が行われ，盛んな拍手がおくられていた．午後から一般講演（遺伝子工学・核酸工学，廃水処理技術，酵素工学・タンパク質工学，植物細胞工学・植物育種工学，生物化学工学，食品工学，分類・系統・遺伝学，動物細胞工学など）および斎藤賞受賞講演，シンポジウム3テーマ（環境バイオに有用な新たな生物機能解明，希少糖－未来を開く新素材－，バイオインダストリーの方向を探る）計17件の講演が行われた．また午後6時30分から生物工学若手研究者の集い（若手会）が国際会議場内レストランエスポワールで行われ，初めて100名を超す若手研究者が集い，大盛況であった.

大会2日目は午前9時から午後5時まで一般講演（遺伝子工学・核酸工学，環境浄化・修復・保全技術，酵素工学・タンパク質工学，センサー・計測工学，生物化学工学，代謝工学・メタボローム，発酵生理学・発酵工学，動物細胞工学，醸造工学，分析化学・物理化学など），照井賞受賞講演，招待講演，シンポジウム7テーマ（短鎖ペプチド研究の新展開，脂質工学：新しい油脂の創製とその機能，細胞組織再生の現状と未来，生命科学/工学における21世紀COE拠点の挑戦，JABEEと生物工学教育の現状と将来展望，光合成微生物の系統進化と機能開発）計40件の講演が行われた．「JABEEと生物工学教育の現状と将来展望」のシンポジウム会場では，英文誌電

つくば国際会議場

授賞式

NII-Electronic Library Service

The Society for Bioscience and Bioengineering, Japan

子化に関係したオンライン投稿・査読システム導入の説明も行われた.

大会3日目は午前9時からシンポジウム3テーマ（生物工学バイオベンチャーサロン－奮闘するバイオベンチャー－，乳酸菌－アジアの伝統的・地域的利用から未来を探る－，微生物コミュニケーション研究の工学的応用への展開）計18件の講演，一般講演（遺伝子工学・核酸工学，環境浄化・修復・保全技術，環境工学，培養工学，資源エネルギー工学，醸造工学，生体医用工学・人工臓器，免疫工学，有機化学・高分子化学，分類・系統・遺伝学など），江田賞受賞講演，招待講演が行われた．一般講演会場として8会場しか用意できなかったため，最終日午後4時頃まで一般講演が行われたが，どの会場も白熱した議論が展開された.

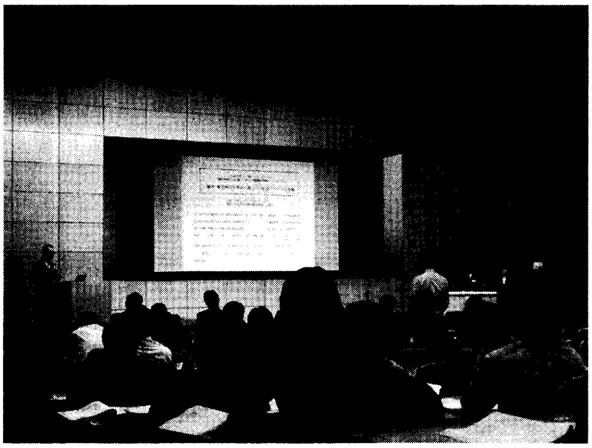
以下に今大会の特記事項を記す.

1）ポスター発表：展示会場の一部をポスター発表会場として一般講演の中から57件のポスター発表を行った．口頭発表を行った上でさらにポスター発表と依頼したが，ポスター発表のみとの誤解が数件あった．16日午後5時から1時間を説明時間としたが，発泡酒やソフトドリンクを飲みながらじっくりと討論できたと好評であった.
特に展示会場の一部をポスター発表会場としたため，ベンチャー企業の出展内容とポスター発表とが関連しているものが数件あり，新しい発表形式を提案することができた.

2）展示会場：従来から行われている理化学展示・書籍販売の他に，開催地「つくば市」の展示や地場産業展示（茨城県酒造組合，茨城県味噌共同組合，茨城県醤油工業共同組合，茨城県納豆商工業共同組合，茨城県窯業指導所）を行った．また16日には英文誌オンライン投稿体験のデモンストレーションが行われた.

3）懇親会：16日午後6時30分から国際会議場において懇親会を行った．懇親会のために移動することなく，学会会場内で行うことを方針としていたので，シンポジウム会場（S2，S3会場）を1時間30分で懇親会会場に設営し直すことに苦労した．招待者を含め約400名の参加者をえて，会場がやや狭く感じるような大盛況であった．茨城県酒造組合のご厚意による大吟醸が入った樽酒の鏡割りに続いて，茨城県の焼き物である「笠間焼きのぐい飲み」で乾杯をした．またテーブルに用意した茨城の地酒（茨城産の米と酵母と水）ピュア茨城を堪能していただき，料理が不足することもなく，皆様に喜んでいただけた.

今回の大会は，発表件数が過去最高で，また参加者数や理化学展示においても最近になく多い大会となった．大会にご協力いただいた多くの方々に感謝いたします.



講演風景

懇親会

NII-Electronic Library Service